

2025年7月号
信頼を礎に、新しい政治を。

Next ARAKAWA 自民党プレス



HP
荒川自民党LINE

どんな事も私たちにお気軽に
相談してください。

自民党荒川区議会

自民党 Lib Dems
Liberal Democratic Party of JAPAN

03-3802-4625

〒116-8501 荒川区荒川二丁目2番3号 5階 自民党控室



もぎ弘



北城さだはる



斎藤やすのり



なみき一元



明戸まゆみ



すがや元昭



鎌田みちてる



夏目亜季



西川こうへい



若林ゆき



どばしけいこ



荒川区出身シカゴ・カブス 鈴木誠也選手の オリジナルマンホールカバーが設置！

荒川区出身で現在メジャーリーグ・シカゴ・カブスで活躍する鈴木誠也選手のオリジナルデザインマンホールカバーが、2025年6月24日、荒川区東尾久3丁目の相馬工業前に設置されました。鈴木誠也選手は、荒川リトルシニア出身。中学時代から本格的に野球に打ち込んできました。2022年からはMLBシカゴ・カブスに移籍。メジャーでも確かな実績を積み上げています。地元・荒川区でも、鈴木選手の存在は子どもたちにとって大きな励みになっています。区内のリトルシニアや少年野球の現場では、鈴木選手のように世界に挑戦する選手を目指す子どもたちの姿が見られます。荒川区ではこれまでも、地元出身のアスリートを応援する取り組みが行われており、今後も地域の子もたちがスポーツに親しめる環境づくりが期待されています。

あらかわ最新NEWS



「日暮里繊維街」で で夏を満喫しよう！

2025年8月1日・2日の10時から15時まで、ふらっとにつぼり（荒川区立日暮里地域活性化施設）1階・2階にて、未就学児から小学校低学年を対象に、**につぼりん釣り（につぼりんグッズ）、ヨーヨー釣り（ハンドメイド作品）、ひもくじ（日暮里繊維街オリジナル商品）、ストラックアウト（お菓子）**など4つのゲームが楽しめる**無料イベント**を開催します（景品は数に限りがあります）。会場では同時に**「モノフェスPinにつぼり」**も開催。なお、駐輪スペースには限りがあるため、公共交通機関をご利用の上ご来場ください。

公契約条例制定についての 要望書を区長宛に提出しました

現在、23区のうち16区が導入している公契約条例について、荒川区でも導入の機運が高まっています。これまでの労働環境整備の取り組み自体には賛同するが、発注者や事業者にとって提出書類の増加や事務負担の煩雑化が大きな課題になっています。条例を制定すること自体に反対するものではないが、**事業者や発注者に過度な負担がかからないよう、シンプルでわかりやすい手続きにすること、北区の簡易な運用方法なども参考にすることを強く求めました。**

訂正：新聞折込されたものでは相馬工業の住所が間違っていました。正しくは東尾久5丁目でした。お詫びいたします。

自民党からは3名の議員が一般質問を行いました

【シルバーパス助成】 本会議で高齢者の外出支援として導入される「シルバーパス購入費助成」は大きな課題がある。本来、これは東京都が行うべき施策であり、荒川区が追加で税金を投入する必要があるのか疑問である。所得に関係なく全員一律1000円の負担とすることが、本当に公平と言えるのか。段階的負担の検討は十分に行われたのか。外出機会の増加という効果も不明確であり、むしろ徒歩で済んでいた近距離移動までバス利用が増えれば、健康推進に逆行する恐れもある。加えて、申請が殺到した場合の財源確保も不透明である。一度始めれば簡単にはやめられない。公共施設の老朽化、子育て、教育、福祉など本当に必要な施策が山積する中で、この助成が最優先であるべきなのか。将来の荒川区のためにも、冷静な判断と見直しが必要である。

【職員採用・人材確保】 荒川区役所の人材確保は深刻な状況である。若手が公務員を選ばなくなってきている。今求められるのは、「やりがい」「成長」「働きやすさ」である。キャリアパスの明確化、スキルアップにつながる研修、そして職場環境の改善が急務である。教員も同様であり、人材不足は福祉、保育、教育すべてに直結する。だからこそ、今、本気の人材戦略が必要である。



もぎ弘議員

【公契約条例について】 区は今年度中の公契約条例の制定を目指している。区内の建設業界は資材高騰や人材不足で厳しい状況にある。今後、小中学校や福祉施設の建て替え、大規模公園の再整備、本庁舎の建て替えなど、大型工事が続く見通しである。公契約条例の制定にあたっては、事業者に過度な負担が生じない制度設計とするよう強く求める。

【特別支援学級の設置について】 自民党荒川区議団は、知的障害特別支援学級とは別に、自閉症・情緒障害特別支援学級の設置を一貫して求めてきた。しかし現状では、障害特性の異なる子どもたちが同じ教室で学ぶ状況が続いている。小中学校の建て替えを待つことなく、喫緊の課題として自閉症・情緒障害特別支援学級の早急な設置を強く求める。



鎌田みちてる議員

【健康づくりと子どもの自然体験について】 健康で楽しく長く暮らすため、フレイル予防に効果の高い「ころばん体操」のさらなる充実を求める。参加者がより満足し、継続できるよう内容の質の向上と実施回数の拡充を。また、区内30ヶ所で実施されている住民主体の介護予防活動については、継続的なコンテンツ提供と指導者育成のための研修を行うよう要望。加えて、自然の少ない荒川区において、身近に自然体験ができる環境の整備が必要である。町屋公園の川沿いに昆虫や水生生物の観察ができるピオトープの設置を東京都に強く要望する。さらに、川沿いに連なる8つの大きな公園のうちの瑞光橋公園には親子で気軽にボートやカヌーが出せる階段護岸の整備を進めるべき。



明戸まゆみ議員